





この「海辺の美術館」では、自炊などが原則のようなのであるが、近くに民宿などがあり、そこと連携して、低料金で食事なども十分に可能のようなのである。一週間滞在して、利用料が六千円、そして、その食事代も、一週間で、利用料と同じ程度の額というのであるから、若い画学生などが、長期に滞在して、製作に励むといふ、そういうことを狙つてのものなのであろう。在して、見たいと思つていた、良寛関連の遺跡などを見られることが、最もかくにも、亡き兄の若い頃の絵画を目にすることも出来るし、そして、一度は訪れて、この十一月の連休を利用して、一週間程度、その「海辺の美術館」に滞在することもあつて、その「海辺の美術館」に滞在することもなつた。新潟行きの新幹線に乗ると、本当に良寛の里の入り口ともいえる燕三条の駅にはあつと、いう間に着いてしまう。その燕三条の駅にはあつと、「海辺の美術館」の館長さんが、出迎えてくれる。その燕三条の駅にはあつと、「海辺の美術館」の館長さんが、出迎えてくれる。



の よ う で 、 車 中 で の お 話 し に よ る と 、 亡 き 兄  
と 館 長 さ ん ご 夫 妻 と は 、 先 の 「 海 辺 の 美 術 館  
便 り 「 に 同 封 さ れ て い た お 手 紙 の 、 若 か り し  
頃 の 東 京 で の 絵 画 塾 の 仲 間 と い う こ と の よ う  
な の で あ る 。  
そ の 奥 様 の 話 し に よ る と 、 「 あ な た の お 兄  
様 は 、 太 宰 治 の フ ァ ン で 、 この 旦 那 様 の 館 長  
さ ん は 坂 口 安 吾 フ ァ ン で 、 私 は と い う と 林 芙  
美 子 フ ァ ン で 、 そ ん な 三 人 が 、 ほ そ ぼ そ と 東  
京 の 片 隅 で 、 本 当 に 、 六 畳 一 間 で 寝 起 き し て  
い た の 「 と い う こ と な の で あ る 。 「 花 の 命 は  
短 く て 、 苦 し き こ と のみ 多 か り き 「 と 林 芙 美  
子 の 一 節 を 口 に し な が ら 、 「 そ ん な こ と を 口  
に し て い た 私 が 生 き な が ら 、 「 そ ん な こ と を 口  
も 信 じ ら れ ま せ ん で し た 「 と 、 そ の お 知 ら せ が あ つ て も 、 と て  
遠 く に 佐 渡 が 島 が 見 え る と い う 日 本 海 の 方 に  
目 を や り な が ら 、 し ん み り し た 調 子 で 話 さ れ  
た の で あ る 。  
た の で あ る 。





の定員が二十名で、他に、館長室兼ミーティング室、食堂兼調理場、風呂場兼トイレ、そして、講堂兼ギャラリーに、ここに滞在して製作した。堂兼ギャラリーに、ここに滞在して製作した。ものなどが中心に、絵画、工芸、書道、そして、彫刻など、総数にすると、小品ではある。が一千点近い位のものが、壁面とパネル板などを利用して、見事に展示されていたのである。」館長さん、これは、まさしく『海辺の村』分教場美術館』ですね。まさに、館長さんの手紙にありました、『一度、亡きお兄さんまたまた、肝を冷やされるような、そんな感慨を覚えたのである。』「本当に悔しいような、そんな感じで、お兄さんと一緒に見ていただこうと、一度、亡きお兄さんい夢となつてしまいまして、それも、もう叶わなは言葉を続け、その作品の一つ一つについて館長さん本当に悔しいような、そんな感のコメントなどをしてくれたのである。お兄さんの絵はありません。この



と、この若かりし頃の、この『コスモス』と少  
女『の絵画の世界に帰つていったのですね』  
その亡き兄の作品に見入つたのである。  
どの位の時間が過ぎたのであろうか、そ  
の館長室には、夕食の準備などで席を外して  
いた、館長さんの奥様もお出でになつてい  
て、『弟さん、この花野の中の、この少女の  
モデル』、そのモデルは、私なのよ。この  
お兄さんの絵は、私とあなたの兄さんと、  
そして、これを宝物のようになつて、  
飾つていた、この人と、と、その館長さんと、  
を指さしながら、『私達の、私達三人の、あ  
のかぐや姫らのフォーラクソングの『神田川』  
の物語なのでよ』とおつしやられたこと、  
意をはつきりと理解すると、  
前に、この『海辺の村分教場美術館』を訪れ  
なかつた、その理由を、  
から、はつきりと理解することができたのである。  
の葉の調